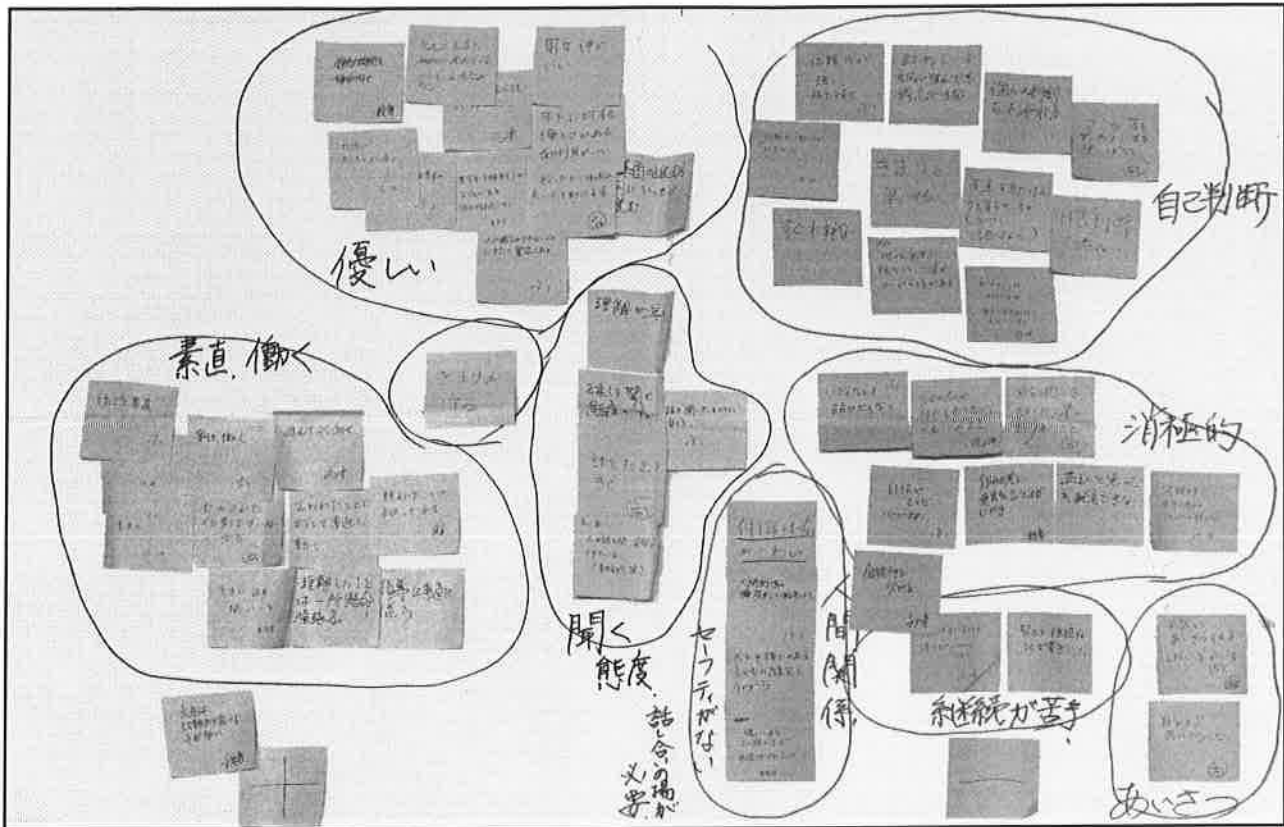


発 表 日：平成30年2月6日（火）
都道府県名：宮城県
学 校 名：白石市立大鷹沢小学校
校 種：小学校
教科・科目等名：道徳

別紙資料一覧

- 別紙資料 1 本校児童の実態についての話し合い（4月）
- 別紙資料 2 道徳意識調査（4月）
- 別紙資料 3 道徳教育全体計画
- 別紙資料 4 「探究の対話」の成果（4学年）
- 別紙資料 5 「書く活動」の成果
- 別紙資料 6 本校児童の実態についての話し合い（12月）
- 別紙資料 7 道徳意識調査（12月）
- 別紙資料 8 授業参観後の保護者の感想の抜粋
- 別紙資料 9 蓄積による評価の一例



【良い面】

- ・優しい
- ・素直
- ・よく働く
- ・聞く態度が良い
- ・きまりを守る

【課題のある面】

- ・自己判断力に欠ける
- ・消極的な態度
- ・継続が苦手
- ・人間関係に安心感がない
- ・あいさつ

別紙資料 2

道徳意識調査（4月）

		全校 (%)			
		4	3	2	1
1	「道徳の時間」の勉強は、すきだ。	63	26	9	2
2	「道徳の時間」の勉強は、ためになると思う。	74	20	4	2
3	「道徳の時間」では、ほかの人の考えを聞きながら、自分のことについてよく考えている。	<u>43</u>	43	10	4
4	人としてしてはいけないことをしない。 (うそをつかない。人をきざづつけない。ひとのものをとらない。)	65	26	6	3
5	自分にはよいところがある。	<u>46</u>	31	14	9
6	ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。	71	18	6	5
7	難しいことでも、失敗をおそれずに挑戦している。	<u>46</u>	33	13	8
8	将来の夢や目標に向かって、努力する人間になりたいと思う。	54	36	7	3
9	家の人や友達との約束を守っている。	61	31	6	2
10	人に出会ったときは、自分からあいさつしている。	57	34	7	2
11	人が困っているときには、進んで助けている。	<u>46</u>	38	10	6
12	人の気持ちがわかる人間になりたいと思う。	83	16	0	1
13	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	86	12	2	0
14	家族や友達、地域の人に役立つ人間になりたいと思う。	75	19	5	1
15	命はかけがえのないものだと思う。 (自分・他の人・動物・植物)	95	3	2	0
16	学級活動では、互いを認めながら話し合い、協力して楽しい学級生活を作ろうとしている。	63	28	8	1
17	児童会や学校行事などにおいて、学校の一員としての役割や責任をしっかりと果たしている。	64	29	7	0
18	大鷹沢が好きである。	78	15	6	1

「ほかの人の考えを聞きながら、自分のことについてよく考えている。」について、「そう思う」が4割で、相手の考えをよく聞いて考えるところが苦手な児童が多い傾向がうかがい知れる。

「人の気持ちがわかる人になりたいと思う。」について8割が肯定しているのに対して、「人が困っているときには進んで助けている」という質問にはやや消極的な回答が目立つ。このことから、思いや考えはあるが、行動に結びついていない児童が多いと思われる。

「自分にはよいところがある。」「失敗をおそれずに挑戦している。」については、「そう思う」が4割で、他の比べて落ちている。また、自分自身に自信がないため失敗を必要以上に恐れ、思い切った行動ができなかったり、自身の考えに従った行動ができなくなったりしている傾向が見られる。

道徳教育全体計画



別紙資料 4

「探究の対話」の成果（第4学年）

○「探究の対話」による量的な変容

4月から対話を取り入れた授業を継続して行ってきたことにより、道徳の授業において児童の発言数が増加した。4月の授業では4年1組20名のうち、11名しか発言をせず、残りの9名は発言しなかった。しかしながら、対話を継続して取り入れてきたことにより、7月の授業では17名、11月の授業では20名全員が発言し、発言数の増加が見られた（図1参照）。

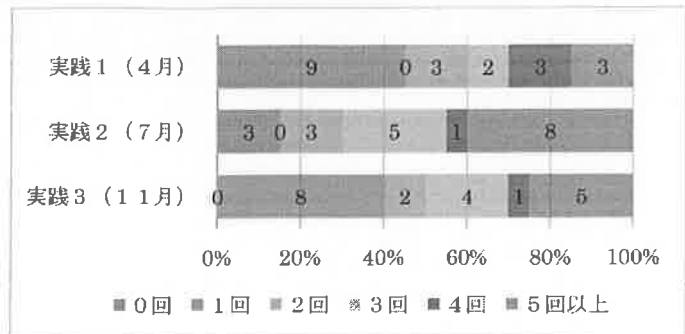


図1 道徳授業における発言回数別児童数

これに伴い、授業で児童が発言した回数の総和も、4月53回、7月72回、11月65回と4月に比べて増加しており、対話において意見交流が活発に行われるようになった。

○「探究の対話」による質的な変容

対話を始めた頃は、教師の発問に対して自分の考えを述べるばかりだった。一部の児童が聞かれたことについて、自分の考えを発表するばかりだった。しかし、11月の授業では、自分の考えを述べるばかりではなく、「○○さんと似ていて〜だと思ふ。」「○○さんとは違って〜だと思ふ」と、友達の考えと自分の考えを比較し、意見が述べられるようになってきた。

また、教師に発問に対して自分の考えを述べるばかりでなく、友達の意見を聞いた上で、「どうしてそう思うの?」「それって本当にできる?」と質問することで、児童同士で対話を進めていく姿が見られるようになった。

T1: 友達の悪いうわさを聞いた人たちはどうすれば良かったのだろう。

C1: 誰かがうわさを止めれば良かった。

C2: 友達がそんなことないって言えば良かった。

T2: 自分のこと考えて。先生だったら誰かがうわさ話をしていたら聞きたくなると思う。先生ならダメだよって言い出せないと思うんだけどどう?

C3: 僕は話をまず聞いてから、ちゃんと注意できる。

C4: 話している人のところに行って、それっておかしいんじゃないって言える。

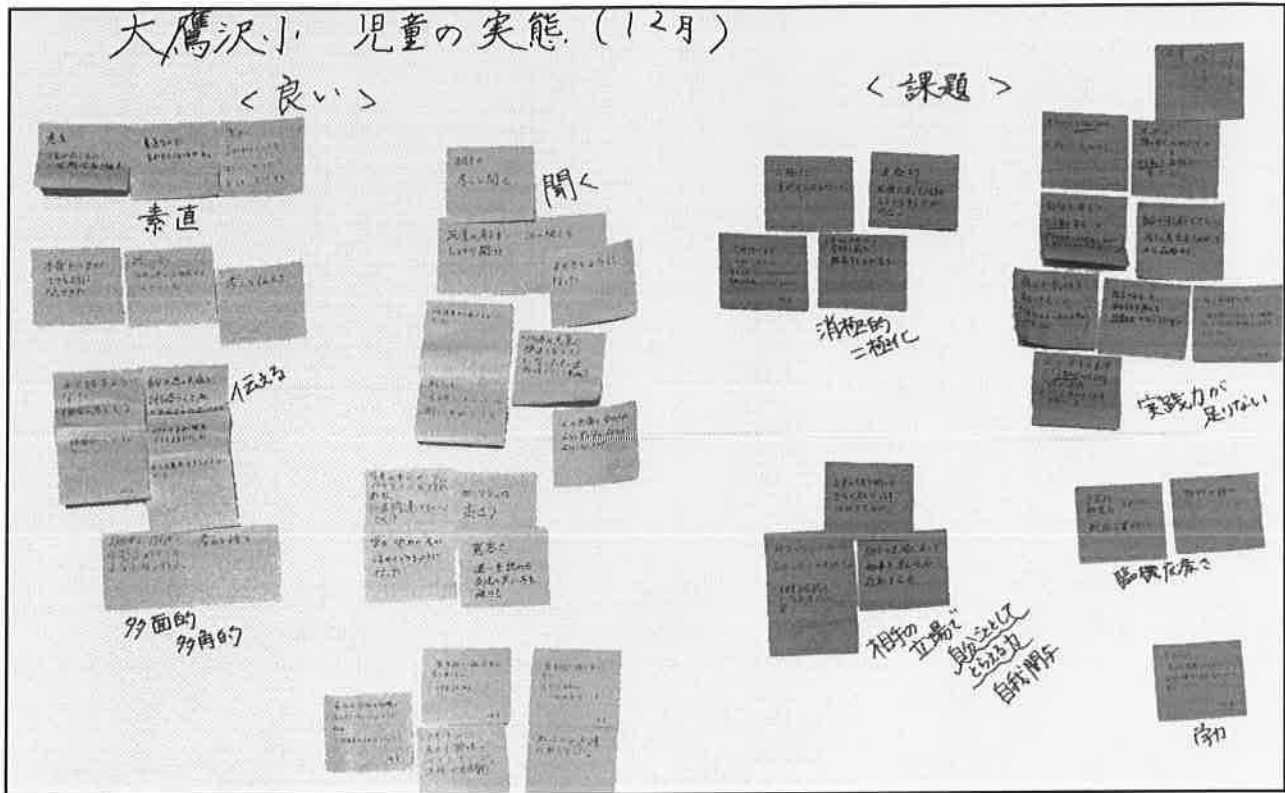
C5: 私は止められないと思う。何か言われそうだし…。

C6: 私もC5さんと似ていて、ダメだよって言っても、「なぜそう言うの?」といじめられるのが怖くて言えない。

C7: C5さんと同じで、自分も賛成しちゃうと思う。

C8: C4くんに質問があります。本当にその場にみんながいるところでダメって言える?

C4: 自分のタイミングで言える人と言えない人があると思うけど、自分だったら言える。



【良い面】

- ・ 素直
- ・ 友達の話をしっかり聞く
- ・ 考えを伝えられる
- ・ 安心感が高まった
- ・ 多面的・多角的に考える

【課題のある面】

- ・ 消極的（発言の二極化）
- ・ 実践力が足りない
- ・ 臨機応変に対応
- ・ 学力
- ・ 自分事として捉える力
（自我関与）

別紙資料 7

道徳意識調査（12月）

1…そう思わない 2…どちらかと言えばそう思わない
3…どちらかと言えばそう思う 4…そう思う

		4月 (%)				12月 (%)			
		4	3	2	1	4	3	2	1
1	「道徳の時間」の勉強は、すぎだ。	63	26	9	2	55	31	13	1
2	「道徳の時間」の勉強は、ためになると思う。	74	20	4	2	75	21	5	0
3	「道徳の時間」では、ほかの人の考えを聞きながら、 自分のことについてよく考えている。	<u>43</u>	43	10	4	<u>51</u>	43	5	2
4	人としてしてはいけないことをしない。 (うそをつかない。人をきずつけない。ひとのものをとらない。)	65	26	6	3	62	30	7	1
5	自分にはよいところがある。	<u>46</u>	31	14	9	<u>48</u>	35	12	6
6	ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。	71	18	6	5	67	29	2	2
7	難しいことでも、失敗をおそれずに挑戦している。	<u>46</u>	33	13	8	<u>45</u>	41	10	5
8	将来の夢や目標に向かって、努力する人間になりたいと思う。	54	36	7	3	52	41	7	0
9	家の人や友達との約束を守っている。	61	31	6	2	50	44	4	2
10	人に会ったときは、自分からあいさつしている。	57	34	7	2	55	32	13	0
11	人が困っているときには、進んで助けている。	<u>46</u>	38	10	6	<u>48</u>	39	12	1
12	人の気持ちがわかる人間になりたいと思う。	83	16	0	1	76	23	1	0
13	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	86	12	2	0	86	13	1	0
14	家族や友達、地域の人に役立つ人間になりたいと思う。	75	19	5	1	74	21	2	2
15	命はかけがえのないものだと思う。 (自分・他の人・動物・植物)	95	3	2	0	89	8	2	0
16	学級活動では、互いを認めながら話し合い、 協力して楽しい学級生活を作ろうとしている。	63	28	8	1	55	42	4	0
17	児童会や学校行事などにおいて、 学校の一員としての役割や責任をしっかりと果たしている。	64	29	7	0	63	30	7	0
18	大鷹沢が好きである。	78	15	6	1	76	18	5	1

4月の調査と比較すると「「道徳の時間」では、ほかの人の考えを聞きながら、自分のことについてよく考えている。」「自分にはよいところがある。」の「そう思う」の割合が少し増加した。

また、「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」といった否定的な回答の割合が全体的に減少した。

別紙資料 8

「授業参観後の保護者の感想」

- ・「100点満点に生きる」なかなか深い考えさせられるテーマでした。子供達も緊張気味でしたが、自分の意見を自由に手を挙げて発表でき、さすが5年生と思いました。いろんな考えを聞けて、とても楽しい授業でした。(中略)帰宅し、私が授業参観していたことを伝えると驚いていました。その日、夕食時、ニュースが流れたら、我が子は「この人は、自分は立派なことをしている、と思っているから100点満点の人生だと思っているけれど、みんなはご飯も食べられないし、ボロ舟で魚をとらないとだめなんて、かわいそうだ。そんな自分勝手なことをして100点満点はおかしいよね」と話していました。道徳の話からニュースの話に連想するところが、我が子らしいというか…。私も夜、寝ながらふと「自分は100点満点に生きているだろうか?」と考えてしまいました。
- ・たくさんの人達が参観している中、緊張したことでしょう。同じ意見や違う意見が飛び交い、堂々と意見を出し合っていて立派でした。話合いの場を持つことで、人それぞれに思ったことや感じたことがあり、答えは一つではなく、そこから会話が生まれ、意見を言い合う、とてもいい授業だと思いました。見ていて私も勉強になり貴重な体験ができました。
- ・大勢の人に見られながらも、すばらしい意見交換だったと思います。特に「〇〇とはどういう意味ですか?」などの発言は大人の私でも感心しました。あと先生方の「〇〇だったらどう思う?」など子供達に分かりやすく議論するのを手助けしている姿がすばらしかったです。
- ・みんな堂々と発表していて立派でした。今、子供の中で強い心と弱い心があって葛藤しているようです。子供と話をすることでたくさん思いがあるなあと感じました。子供とゆっくり接していきたいです。
- ・公開研究とても素晴らしかったです。まだまだ子供だと思っていたのにみんな子供なりにすごく考えていたり、みんなが友達の意見に賛同したり、さらに考えを加えて発表したり、本当に素晴らしい姿でした。道徳って難しく何が正解で何が間違っているか大人でさえ、答えを出すことができないこともあるのに「立派だな」としか出ませんでした。子供達の成長、考えが、一人の親として人として勉強になりました。

「授業参観後の保護者の感想」

- ・道徳の授業をしていたおかげで家族のこと、友達のこと、将来のことなどいろいろと自分の気持ちを話してくれるようになりました。うれしかったです。
- ・自分を律することができた3ヶ月だと思います。自分からすることも増えて立派になりました。
- ・自分のことは自分でできるようになりました。平日の夜の米炊きも毎日よく頑張って続けてくれました。この頃は分からない所は辞書をひいたりノートを見直したり自分で解決しようとする姿が見られるようになりました。自分の意見や学校での出来事や思っていることを素直に話してくれます。道徳の授業のおかげでしょうか。数ヶ月で心が大きく成長したように思いました。
- ・「勉強も覚えたい」という意欲が高まり、分からない所は聞きにくることが多くなりました。漢字も間違えた所は何度も練習するようになりました。特に身のまわりの整理・整頓が上手になり、手伝いも一つと言わず、二つも三つも喜んでしてくれます。頼もしくなったなと感心しています。

別紙資料 9 蓄積による評価の一例

○ワークシートの蓄積による評価の一例＜A児＞

【9月】

主題名 相手の気持ちを考えて 内容項目 B-（11） 相互理解，寛容

ワークシートの記述

健太さんはその後もトラブルがあったと思うけど，みんなで相談して納得するまで話し合いをしたからよかった。

⇒資料からの読み取り，書き抜きが多く見られ，自分ごととしての捉えが弱い。

※資料を読んで，その道徳的価値について自分ごととして捉えることが難しかった。

【12月】

主題名 自分らしさの発見 内容項目 A-（4） 個性の伸長

ワークシートの記述

自分にも得意なことや苦手なことがある。でも，苦手なことにも自分の力でがんばって成功できたら本当の百点満点になれると思う。

⇒資料から離れて道徳的価値について自分のことに置き換えて考えることができた。

※資料を読んで考えたことを，自分ごととして考えることができるようになった。

【評価】

資料についてなかなか自分ごととして捉えることができなかったが，回を重ねるごとに自分ごととしての捉えがうまくできるようになってきた。このことが児童が価値理解をもとに，自己を見つめることができ，それを通して自ら考え，理解することができるような主体的な学びへつながってきた。

○発言の記録による評価の一例＜B児＞

「探究の対話」の発言記録より

（自分のいのちを大切に，精一杯生きることが百点満点につながるという話の流れから）

C せっかく親に育ててもらったから

C 自分のしたいことを精一杯する（B児）

C 今のに質問なんだけど，精一杯に生きていれば人に迷惑かけてもいいの？

C そういうことじゃなくて，悪いことじゃなくていいことをする

C 悪いことはいけないけど，その人にとっては百点満点

C やっぱりそこは，空気を読む・・・（B児）

（ 中 略 ）

C 自分が苦勞することでもやり遂げることが百点満点に近づく（B児）

C 最後まであきらめないでやり遂げる

C 友達にどうしても勝てないことがあるけど，じゃあその人は百点満点になれない？

C 違う百点満点だと思う（B児）

【評価】

はじめは，とにかく精一杯生きることが百点満点の生き方だと捉えていたが，対話の中で他の児童からの投げかけや意見を聞いて，人にはそれぞれの短所や長所があり，お互いにそれを尊重しなければならないことにも気付くことができた。資料の道徳的諸価値について多面的・多角的に考えたことで価値理解と同時に自己理解，他者理解を深め，自己の生き方についての考えを深めることができた。

○自分の考えを表現するのが苦手な児童の評価＜C児＞

C児は，普段からなかなか自分の意思を表現できない。集団での活動に参加しにくく，別室で気持ちを落ち着かせてから教室に戻ることが多い。ただ，「次は道徳の授業だけれど，どうする？」と確認すると教室に戻り，道徳の授業に参加することができる。授業中は，自分の考えを発表することも書いてまとめることもない。授業後の感想の聞き取りも難しい。

しかし，円座になって対話に参加する態度に変化が見られた。はじめはひざを抱えて椅子に座り，フードをかぶっていたが，対話が徐々に進んでいくに従って，時折フードの下から顔をのぞかせるようになり，ついにはフードを頭から外して友達の話に耳を傾ける姿が見られた。その後，たとえ周囲に参観者がいても対話の中に入ることができた。この変容は主体的に動いていると評価することができるかもしれない。